

Security Manager 4.3 のサーバ バックアップに関する推奨事項

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[Common Services GUI](#)

[CSM サーバの CLI](#)

[バックアップの復元](#)

[問題：バックアップ ロック ファイルが残っている](#)

[解決方法](#)

[問題：バックアップ ツールまたは Backup.pl スクリプトが使用されていない](#)

[解決方法](#)

[問題：バックアップ スペースに関する要件](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Security Manager (CSM) のバックアップで発生する一般的な問題について説明し、それらの解決策を示します。

背景説明

このドキュメントでは、CSM 4.3で発生する一般的な問題について説明します。このドキュメントではCSM 4.3に焦点を当てていますが、同じ問題と解決策が他のバージョンにも適用される可能性があります。

Cisco Works Common Services は、すべてのサーバ アプリケーションのデータベースを管理します。Common Services のバックアップ/復元ユーティリティを使用して、データベースをバックアップ/復元します。CSM データベースをバックアップするには次の 2 つの方法があります。

1. Common Services GUI
2. CSM サーバの CLI

Common Services GUI

注：バックアップ要求はすべてのプロセスを停止させます。この間は、サーバにアクセスできません。バックアップが完了すると、プロセスが自動的に再起動します。

データベースバックアップは CSM サーバ自体に保存されます。ディレクトリ名が指定されなかった場合は、デフォルトのディレクトリ名が "0" になります。ディレクトリ内には、次の 3 つのフォルダがあります。

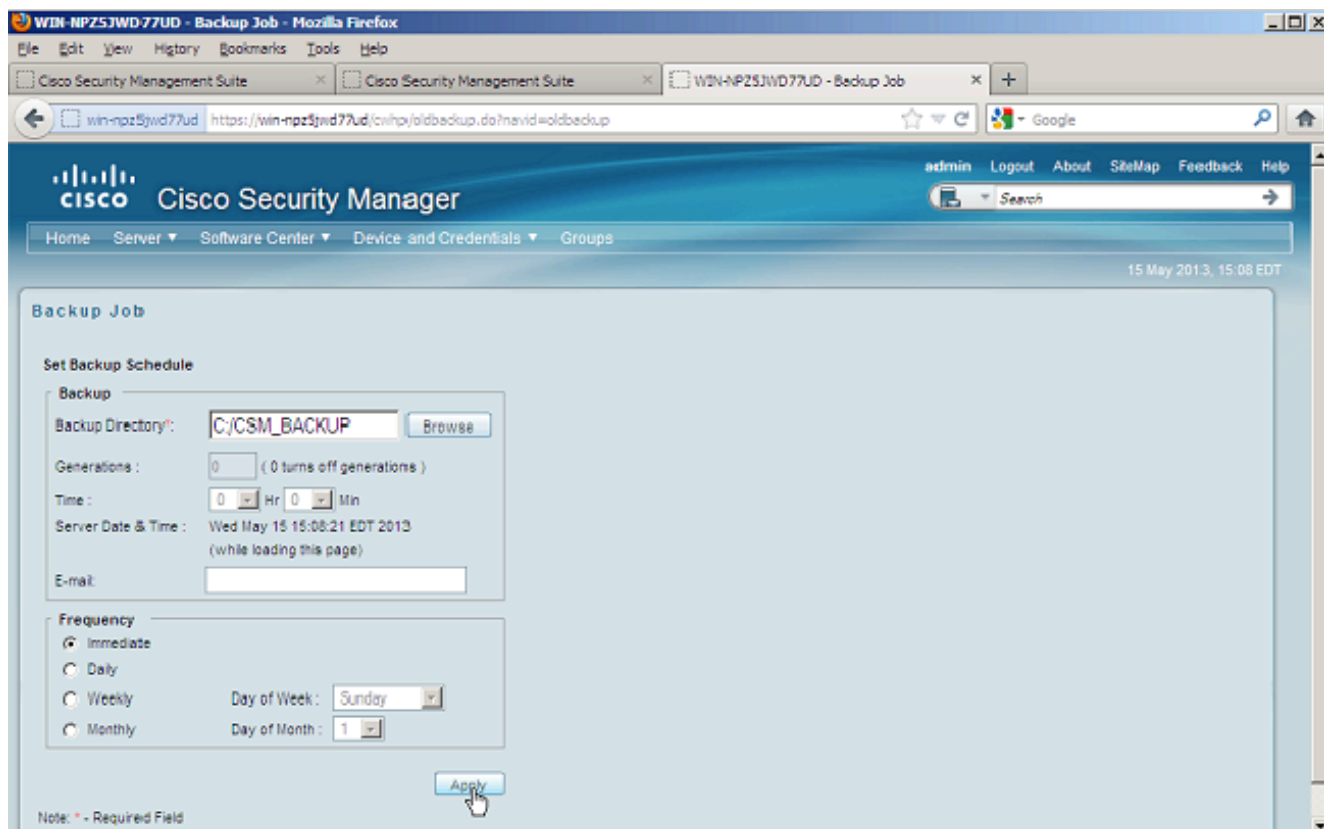
- CMF
- RPT
- VMS

データベースバックアップのサイズは、設定と CSM によって管理されているデバイスの数によって異なります。データベースバックアップを取得する前に、CMS サーバ上に十分なスペースがあることを確認してください。

1. CSM サーバにログインするには、Web ブラウザに「https://server_ip:1741」と入力します



2. [Common Services Server Administration] ウィンドウを開いて、[Server] > [Backup] に移動します。



3. [Apply] をクリックして、バックアップ警告を確認し、プロセスが終了するまで待機します

。

CSM サーバの CLI

Windows と Solaris 上で CLI を使用してデータをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
NMSROOT/bin/backup.pl BackupDirectory [LogFile] [Num_Generations]
```

- **BackupDirectory** : バックアップ ディレクトリにするディレクトリ。
- **LogFile** : ログ ファイル名。
- **Num_Generations** : バックアップ ディレクトリに保存する最大バックアップ世代。

注 : コマンドにスペースを含めることはできません。以下に、いくつかの例を示します。
C:\> "C:\PROGRA~1\CSCOp\bin\perl" "C:\PROGRA~1\CSCOp\bin\backup.pl" C:\Temp

CSM バックアップが完了すると、CLI がコマンドプロンプトに戻ります。ディレクトリ "C:\Temp" を参照すると、数字 (ほとんどの場合 0) でラベルが付けられたフォルダが表示されます。"0" というラベルのフォルダには、3 つの一意のフォルダがあります。フォルダの 1 つには、"vms" というラベルが付けられ、CSM データベース情報が保存されています。

バックアップの復元

データを復元するには、適切な権限を持っていることを確認します。コマンドプロンプト (cmd.exe) を開いて、次の手順を実行します。

1. すべてのプロセスを停止するために、次のコマンドを入力します。

C:\>net stop crmdmgtd

2. データベースを復元するために、次のコマンドを入力します。

C:\Program Files\CSCOpX\bin>C:\PROGRA~1\CSCOpX\bin\perl

C:\PROGRA~1\CSCOpX\bin\restorebackup.pl -d

C:\Temp

Restore started at : 2012/09/21 09:04:49

Please see 'C:\PROGRA~1\CSCOpX\log\restorebackup.log' for status.

USER ID is : Administrator

OS of the backup archive is..... : Windows

Generation to be restored is : 0

Backup taken from..... : C:\Temp

Common Services version in the backup data is... : 4.0

Common Services is installed in..... : C:\PROGRA~1\CSCOpX

The temp folder for this restore program..... : C:\PROGRA~1\CSCOpX\tempBackupData

Applications installed on this machine : [Common Services][aus][vms]

Applications in the backup archive : [Common Services][aus][vms]

Applications to be restored are..... : [Common Services] [aus][vms]

req_nms_space : 2734563794

req_temp_space : 4004774354

Available disk space in NMSROOT..... : 62161104 Kb

Required disk space in NMSROOT..... : 6581384 Kb

(The temp and NMSROOT are on same device, therefore this required disk space includes temp space)

Copying the backup files to the temporary location [C:\PROGRA~1\CSCOpX\tempBackupData]

preRestore of [Common Services] has started.

preRestore of [Common Services] has completed.

preRestore of [aus] has started.

preRestore of [aus] has completed.

preRestore of [vms] has started.

preRestore of [vms] has completed.

doRestore of [Common Services] has started.

License check started.

WARNING: The license details in the server are different from the backup data.
After restoring, please check the license available in the server.

License check completed.

Restoring certificate.

WARNING: Cannot evaluate the hostname, hence the certificate
may be from this host or another host.

[Certificate not overwritten]

Restored Certificate.

Restoring Common Services database.

Restored Common Services database.

Restoring CMIC data.

Restored CMIC data.

Restoring CMC data.
Restored CMC data.

Restoring Security Settings.
Restored Security Settings.

Restoring DCR data.
Restored DCR data.

Restoring Certificate key store.
Restored Certificate key store.

Restoring JAAS configuration.
Restored JAAS configuration.

JRM Job Migration started.
JRM job Migration done.
doRestore of [Common Services] has completed.

doRestore of [aus] has started.
doRestore of [aus] has completed.

doRestore of [vms] has started.
doRestore of [vms] has completed.

postRestore of [Common Services] has started.
postRestore of [Common Services] has completed.

postRestore of [aus] has started.
postRestore of [aus] has completed.

postRestore of [vms] has started.
postRestore of [vms] has completed.

Restored successfully.

3. この場所にあるログ ファイルを調査して、データベースが復元されたことを検証します。
次のように入力します。

```
C:\>nmsroot\log\restorebackup.log
```

4. システムを再起動するために、次のコマンドを入力します。

```
C:\>net start crmdmgtd
```

問題：バックアップ ロック ファイルが残っている

CSM バックアップを実行すると、次のようなエラーで失敗します。

```
Backup failed.ERROR(383): C:\PROGRA~2\CSCOpX\backup.LOCK file exists
```

解決方法

CSM は、バックアップを開始する前に、バックアップ ディレクトリに新しいロック ファイル (backup.LOCK) を作成します。バックアップが中断または失敗すると、このファイルがクリーンアップされません。CSM サーバから現在の backup.LOCK ファイルを削除してから、バックアップ プロセスを再起動する必要があります。

問題：バックアップ ツールまたは Backup.pl スクリプトが使用されていない

CSMサーバは、サーバのGUIでバックアップツールを使用するか、サーバでBackup.plスクリプトを使用してバックアップされません。CSMを復元するために、外部アプリケーションでバックアップされたファイルを使用できますか。

解決方法

CSM バックアップ プロセスは、個々のデータベースからデータを取得します。簡易ファイル バックアップは、このデータを正しくキャプチャしないため、このファイルを CSM の復元に利用することはできません。ただし、仮想マシン (VM) を完全にシャットダウンして、VM 全体のスナップショットを作成した場合は、それを CSM の復元に使用することができます (すべてのディレクトリ、ファイル、およびドライブがスナップショットによってキャプチャされている必要があります)。

問題：バックアップ スペースに関する要件

バックアップの復元を実行するときに、スペースに関する要件が発生します。CSM バックアップの復元にはどのくらいのスペースが必要ですか？

解決方法

データベース バックアップを復元するには、CSM サーバに CSM データベース バックアップのサイズの 3 倍の空き領域が必要です。通常、CSM データベース バックアップは取得後に zip 形式で圧縮されます。CSM サーバに転送したときに、解凍する必要があります。解凍後に、復元する必要があります。CSM 復元プロセスが、データベースを CSM サーバにインストールする前に一時的な場所にコピーします。

関連情報

- [Cisco Security Manager 4.3 インストレーションおよびアップグレード ガイド](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)